

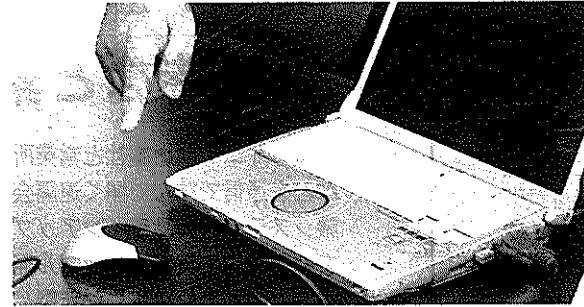
13.12.7.フジサンケイビズネスアイ 5(A)

立命館大 LED使用のシステム開発

マウス待機電力ほぼゼロに

立命館大は、発光ダイオード(LED)を使い、ワイヤレスの電子機器の待機電力をほぼなくすることができるシステムを開発した。リーダーの道関隆国教授は「家庭の消費電力量を抑えることができる」としている。

電気を流すと発光するLEDには、光や赤外線を当てると微弱に発電する特性がある。これを利用し、ワイヤレスのマウスの側面と、手が触れる上部に、明るい室内の光に反応するLEDを計2つ装着。つかむと発電



LEDを使い、待機電力を、
ほぼなくしたワイヤレスの
マウス 滋賀県草津市

量が変化してマウスは起動し、
離すと自動的に電源が落ちる。
常に触れられたか検知し続ける

既存のマウスと比べ、待機電力
は約100万分の1という。

テレビなどのリモコンでは現

在、テレビ側が待機電力を使っている。今回のシステムはテレビにLEDを装着。LEDにリモコンの赤外線を当てると電気が流れてスイッチが入り、電力を使い始める仕組みを想定している。使用したLEDは安価で入手もしやすいといい、道関教授は「長期の外出時に家電のコンセントを抜く必要もなくなる。テレビやエアコンなどの家電にも応用したい」と話している。